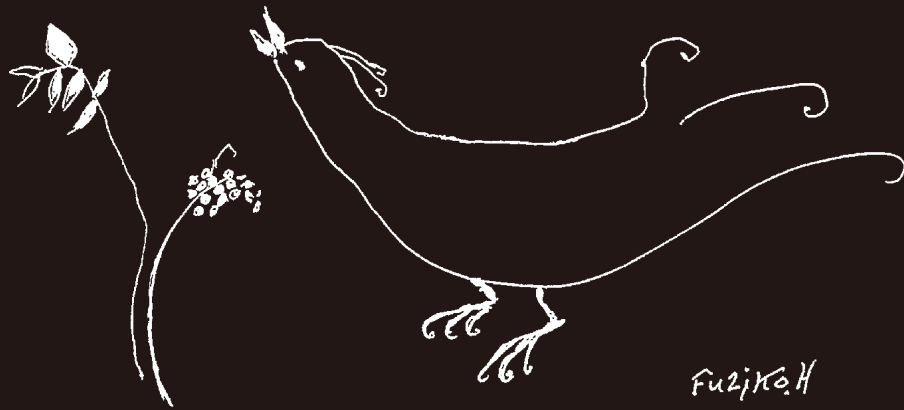


フジコ・ヘミング
ピアノ コンサート 2018



2018年11月20日

ヤマハホール

Fuziko Hemming 

ラ・カンパネッラ / 青葉ピアノ

PROGRAM

D. スカルラッチェ (1685-1757) Domenico Scarlatti

- ◆ ソナタ ホ長調 K.380 (L.23)
- ◆ ソナタ ハ長調 K.159 (L.104)

F. ショパン (1810-1849) Frédéric Chopin

- ◆ エチュード 変イ長調 作品 25-1 「エオリアンハーブ」
- ◆ エチュード ホ長調 作品 10-3 「別れの曲」
- ◆ エチュード 変ト長調 作品 10-5 「黒鍵」
- ◆ エチュード ハ短調 作品 10-12 「革命」
- ◆ ノクターン 変ロ短調 作品 9-1
- ◆ ポロネーズ 第 6 番 変イ長調 作品 53 「英雄」

..... intermission

W.A. モーツァルト (1756-1791) Wolfgang Amadeus Mozart

- ◆ ソナタ 第 11 番 イ長調 「トルコ行進曲付き」 作品 331
 - 第 1 楽章 主題と変奏—アングデンテ・グラツィオーソ
 - 第 2 楽章 メヌエット
 - 第 3 楽章 ロンド “トルコ風”—アレグレット

C. A. ドビュッシー (1862-1918) Claude Achille Debussy

- ◆ 月の光 「ベルガマスク組曲」より 第 3 曲
- ◆ 雨の庭 「版画」より 第 3 曲

F. リスト (1811-1886) Franz Liszt

- ◆ パガニーニによる大練習曲 第 6 番
 - イ短調 「主題と変奏」 作品 141 より
- ◆ 愛の夢 第 3 番 変イ長調 作品 541 より
- ◆ パガニーニによる大練習曲 第 3 番
 - 嬰ト短調 「ラ・カンパネラ」 作品 141 より

*演奏曲目、曲順が一部変更になる場合がございます。予めご了承下さい。

Ingrid Fuzjko Hemming イングリット・フジコ・ヘミング

スウェーデン人建築家ジョスタ・ジョルジ・ヘミングと東京音楽学校(現・東京芸術大学)出身のピアニスト大月投網子を両親としてベルリンで生まれる。母の指導で幼い頃からピアノを始めた。

10歳のとき、レオニード・クロイツァーにつき、大きな影響を受ける。クロイツァーは、彼女が将来、世界中の人々を魅惑するピアニストになるだろうと予言していた。

青山学院、東京芸術大学をへて、NHK・毎日コンクール受賞、日本フィルなど数多くのオーケストラと共演、来日中のサムソン・フランソワは、フジコのショパン、リストを聴き絶賛。その後、ベルリン国立音楽学校に入学し主席で卒業。

その後、ウィーンに移り、後見人でもあったパウル・パドウーラ・スコダに師事した。今世紀最大の一人ともいわれる作曲家・指揮者のブルーノ・マデルナにウィーンで才能を認められ、彼のソリストとして契約したことは、彼女が最も誇りとしているところのひとつである。

ちなみにこの成約に際しては、彼女の演奏に感銘を受けたレナード・バーンスタインからのサポート(支持・援助)があった。ヨーロッパでの多くの演奏会は大成功をおさめた。

1968年すでにドイツの“DieWelt”紙は「ピアノを弾くため、ショパンとリストの為に生まれて来た。」また「日本から偉大なピアニストが出た。」と報じている。

ドイツ、オーストリア、スウェーデンでの放送は、好評につき、たびたび再放送された。

その頃、フジコ・ヘミングは、ウィーンで演奏会直前に聴力を失った。

1999年NHKで放送されたETV特集は、大反響を呼び、その後、何度も再放送される。

同年8月に発売されたファーストCD『奇蹟のカンパネラ』は200万枚を超える売り上げという、クラシック界異例の大ヒットを記録し、いまだにその記録を更新し続けている。これまで2枚のCDで日本ゴールドディスク大賞、4度にわたる各賞のクラシック・アルバム・オブ・ザ・イヤーを受賞。

2000年以来、モスクワフィルハーモニー管弦楽団、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、ハンガリー放送交響楽団、ベルギー国立管弦楽団、イギリス室内管弦楽団他と共演。2001年6月には、ニューヨーク・カーネギーホールでのリサイタルに3000人の聴衆が会場を埋め尽くし、感動の渦を巻き起こした。集まった聴衆からは「マリア・カラス以来の大盛会」と絶賛の声が続かず、大成功とともに演奏活動の幅を世界へと広げるための第一歩を踏み出した。2007年より現在までワルシャワショパンフェスティバル、パブロ・カザルス国際音楽フェスティバル、ソフィア国際音楽フェスティバルなどから招待されている。その他この10年にわたる世界中の伝統あるコンサートホールでのソロ公演や世界の第一線で活動する著名オーケストラ、ロイヤルフィルとの共演は枚挙にいとまがない。彼女と協演した際、ミッシェル・マイスキーは“忘れ得ないピアニスト”、マキシム・ヴェンゲーロフは“あなたの芸術を賞賛します”と形容している。その他共演した多くのアーティストから絶賛されている。

2013年には、モスクワ・フィル、チェコラジオシンフォニーなどからソリストとして招待されている。世界各国の定期公演に出演し、その名声を海外に広げている。

同年、フジコの最新CDが、スペイン最大のクラシック・ラジオ番組「カタルーニャ・ラジオ」のリスナーにより1位に選ばれた。

2014年には9月から11月までヨーロッパ9カ所11会場で開催し、各地でスタンディングオベーションを受け好評を博した。

2015年6月にはブラハ放送交響楽団と共演、また12月にはキエフ国立フィルハーモニー交響楽団との共演、2004年頃から何度も共演しているモスクワフィルハーモニー管弦楽団と2016年2月に再び共演し素晴らしい演奏に拍手の嵐であった。

2016年4月にはニューヨークの国連本部会議場で「日本国連加盟60周年記念」の文化事業で演奏し拍手喝采。その後チリ、アルゼンチン、マナウス、パラグアイでも「日本人移民開始80周年記念文化事業」コンサートと南米ツアーを大好評で終えた。

秋にはヨーロッパ6カ国10公演を行い、日本では、エルサレム交響楽団などと精力的に演奏活動を行い2017年4月にはイタリア国立管弦楽団と共演、5月にアメリカツアーを大成功で終えた。

6月以降モスクワフィルハーモニー管弦楽団、ハンブルク交響楽団、ロシア国立交響楽団、バルチック楽奏四重奏団と共演、ブタペスト、キエフなどでソロ公演を大盛況でおえた。夏のポーランドフェスティバルに出演、地元ラジオ局は、『コンサートで観客は、ショパン、リスト、などの曲の演奏に酔いしれた。彼女のピアノ演奏が綺麗だった。私は、この時代に技術的で美しく演奏するようなピアニストを聞いたことがない。彼女は作曲家の全てのキャラクターと魂を再現した。それは美しかった。』と大絶賛の評価を受けた。2017年4月からプライベートレーベル(ダギーレーベル)より会場限定盤としてライブ・ソロ・アルバムが発売となりました。

2018年3月にはイタリア国立管弦楽団とイタリアツアー、4月にはオーストリアでウィーン室内管弦楽団とモーツァルトホールで共演して大盛況で終えた。

2018年6月から、ドキュメンタリー映画「フジコ・ヘミングの時間」が公開されている。

2018年春のジャパンツアーを終えて7月ニューヨークのカーネギーホール公演を大成功に終えた。

9月からのヨーロッパツアーを大盛況に終え10月末にはアメリカ、サンフランシスコに移動してコンサートを終え11月からのジャパンツアーが始まっている。

コンサート情報や会場限定CD等の詳細は公式サイトをご覧ください。

